

常照

第 821 号

成仏道

①『仏説無量寿経』の対告衆たいごうしゅう

日本にはたくさんさんの仏教の宗旨・宗派があります。私たちの浄土真宗をはじめ、禅宗、真言宗、法華宗、浄土宗など、それぞれ依って立つ御経（お釈迦さまの説法録）によって宗旨が立てられています。

しかしどの宗旨であっても仏教ですから、共通の課題は自分自身

が仏教徒としていかにして成仏するかということです。

そもそも宗旨が別れていくもとは、御経、つまりお釈迦さまの説かれた説法の内容の違いにあります。そこで我々は興味本位に、すぐにどこの宗旨の教えが勝れているかとか、宗旨が別れるのは受け継いだ者の了解違いだとか、一宗を立てる名利心だとかと考えてしまいましたが、どれも違います。

ここで大事なことは、それぞれの御経で、誰がお釈迦さまに教えを請い、その者はどのような苦悩を抱えているかということなんです。このお釈迦さまに教えを請い、お釈迦さまが救いを説いた相手に対告衆（たいごうしゅう）と言います。仏教の救いですから、その対

告衆がどのようなにしたら成仏するかをお釈迦さまは説き示します。成仏を端的に言えば、お釈迦さまと同じ涅槃（ねはん）の覺りを獲得するということです。覺りの内容はいくつもあります。涅槃寂靜（ねはんじやくじょう）というように、仏の覺りの境界は煩惱の火が消えた静かな精神世界です。火宅無常（かたくむじょう）の世界に翻弄される中であって、それに支配されず生きる者となるということが、まずそのひとつでしょう。

お釈迦さまは成仏する教えを説くにあたり、対告衆が出家の弟子であれば、当然厳しい修行と學問に精進して覺りを獲得し成仏しなさいと説かれます。他方、在家・

民衆が対告衆の時は、世俗の生活の中で仏法を聴聞し、仏の覺り「南無阿彌陀仏の名号」と共に生きて成仏する道を説いています。これを対機説法（たいきせっぽう）といえます。つまり説法する相手の機根（きこん―生活環境と能力）に応じて、その者が的確に成仏する方法を教えているのです。

私たちの浄土真宗は、『仏説無量壽經』（以下『大經』だいきょう）の教えによって立てられた宗旨です。この『大經』は、覺りをえることができず苦悩する仏弟子・阿難（あなん）の問いから始まり、難（あなん）では対告衆である阿難が唐突にお釈迦さまに対し質問されるので背景が分かりにくいのですが、阿難は出家しているもの

の未離欲（みりよく―煩惱を断ち切ることができていない）の仏弟子と言われ、お釈迦さまが生きているあいだ阿羅漢（あらかん）の覺りを得ることができなかつた仏弟子として伝えられています。また端正な顔立ちで非常に情け深く誰に対しても優しい人柄であつたので女性に大変人気があつたとも言われています。普段はお釈迦さまの身の回りの世話をしながら寄り添うように生活をしていました。そのためお釈迦さまの説法を誰よりも多く聞いていました。このようにいつまでも独り立ちできない阿難は他の弟子達からは厳しい言葉を投げかけられもしたし、自分自身も覺りを得られず忸怩（じくじ）たる思いでいたことが

推察されます。

その阿難がある日突然、お釈迦さまの姿を見て仏の覺りが分かるのです。毎日見ているはずのお釈迦さまに「今日はじめて、いきいきとひかり輝くお釈迦さまに出遇いました。それは念仏しているからですか」と感動をもって質問します。長く説法を聞いてきた成果か、それとは全く無関係なのかは分かりませんが、阿難は人が輝くようにいきいきと生きているというのと、それが念仏しているために起こるのかというのを、お釈迦さまに尋ねます。お釈迦さまは、阿難の言っている通りだけれど、なぜそのことが分かつたのかということに注目します。本来、仏の覺りは阿羅漢の覺りを獲得し

た仏弟子でなければ分からないのです。ところが、それが未離欲の仏弟子の上に起こっているわけです。この事実にお釈迦さまは大変驚かれて、阿難の身に起きた見仏（けんぶつー仏に出遇う）の体験が、全人類が正しく成仏することができる確証であると喜ばれます。

つまり個人の資質や能力、人間としての真面目さ、また出家在家の環境とは関係なく、仏に出遇い信心を獲得したならば、どのようになんか生きてきたものであっても必ず成仏する。この阿難の体験の深い意義を丁寧に説いたのが浄土真宗の正依の經典である『仏説無量寿經』です。

〈次号につづく〉

六月の常例布教（ご法話）のご案内

○前期 六月七日（火）～十一日（土）

東海教区三重組 延長寺

講師 寺尾 俊洋 師

○後期 六月十三日（月）～十六日（木）

東京教区 茨城東組 清心寺

講師 増田 廣樹 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時（法要終了後）～

午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。
どうぞお誘い合わせ頂き、ご聴聞に来院ください。
席の間隔を保ち、換気実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話 (0134) 221074
FAX (0134) 291080
テレホン法話 (0134) 271161